

横浜市教育委員会 臨時会会議録

- 1 日 時 平成21年4月28日（火）午前10時00分
- 2 場 所 教育委員会会議室
- 3 出席委員 今田委員長 小濱委員 吉備委員
野木委員 中里委員 田村委員
- 4 欠席委員 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

平成21年4月28日（火）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 教育長一般報告・その他報告事項
横浜F・マリノス選手会による特別支援学校へのチケット贈呈について ほか
- 3 協議事項
中高一貫教育校について
- 4 審議案件
教委第4号議案 教職員の人事について
- 5 その他

[開会時刻：午前10時00分]

～傍聴人入室～

- 今田委員長 ただいまから、教育委員会臨時会を開催いたします。
まず、はじめに、会議録の承認を行います。前回平成21年4月14日の会議録署名者は、野木委員と中里委員です。会議録につきましては、すでにお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。
- 各委員 <了 承>
- 今田委員長 それでは、承認いたします。なお、字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。それでは議事日程に従い、教育長から一般報告をお願いします。
- 田村教育長 【教育長一般報告】
- 1 市会関係
 - 4/15 青少年・市民スポーツ特別委員会（幹部職員紹介）
 - 4/21 市民活力推進・教育委員会（視察：世田谷区日本語教育特区の取組）
 - 2 市教委関係
 - (1) 主な会議等
 - 4/22 横浜F・マリノス選手会シーズンチケット贈呈式
 - 4/23 全市児童生徒指導担当教諭合同会議（教育文化ホール）
 - 4/23 市立学校人権教育推進協議会総会（関内ホール）
 - (2) 報告事項
 - 横浜F・マリノス選手会による特別支援学校へのチケット贈呈について
 - 平成21年度実施横浜市公立学校教員採用候補者選考試験について
 - 平成21年度全国学力・学習状況調査の実施について
 - 教育委員会事務局ブタインフルエンザ対策本部の設置について
 - 開国博Y150開会式及び内覧会の実施について
 - 3 その他
- 今田委員長 教育長の報告が終了しましたが、ご質問等ございますか。
- 小濱委員 児童生徒指導担当教諭合同会議の内容はどのようなものですか。
- 灘邊児童・生徒指導担当部長 児童・生徒指導の21年度の方針を提示し、あわせて、中学校区ごとによる小中合同、小中連携の合同の打ち合わせを行いました。
- 小濱委員 特に出された問題等がありますか。

灘邊児童・生徒指導担当部長	今回の会議では提案や意見の吸い上げなどは行っておりません。
小濱委員	できれば、あまり形式的な会議にならないようにしていただきたいと思います。
灘邊児童・生徒指導担当部長	先ほどお話があった内容については、毎月行っております区代表会で行っております。
今田委員長	他にご質問等がなければ、先程、教育長より、別途所管課から説明とありました「横浜F・マリノス選手会による特別支援学校へのチケット贈呈」について説明をお願いします。
漆間学校教育部長 仲俣特別支援教育課長	【「横浜F・マリノス選手会による特別支援学校へのチケット贈呈」について説明】
今田委員長	事務局から説明が終了しましたが、ご質問等ございますか。 特にご質問等がなければ、次に「平成21年度実施横浜市公立学校教員採用候補者選考試験」について説明をお願いします。
大野教職員人事・企画部長 重内教職員人事課長	【「平成21年度実施横浜市公立学校教員採用候補者選考試験」について説明】
今田委員長	事務局から説明が終了しましたが、ご質問等ございますか。
田村教育長	ぜひ、応募者を昨年より増やして優秀な人材を確保できるようにしていきたいと思います。
今田委員長	特別支援学校の子が増えていると聞きますが、先ほどの説明では20名の募集数を増やし、特別支援学校と小中学校の個別支援学級へという話がありました。
田村教育長	全国的に特別支援学校に通うお子さんが増えておりまして、神奈川県におきましても、その対応に苦慮しております。県は今後、特別支援学校の数を増やすことも考えているとのことですが、市としてもできる限りの協力はしていきたいと思います。
今田委員長	県との関係、教育委員会同士の連携も大事ですが、こども青少年局や健康福祉局との連携もしっかりとってください。

田村教育長	医療と教育、福祉と教育との連携が特別支援学校の子どもたちには重要でありますので、その点はしっかり取り組んでいきたいと思いをします。
中里委員	ぜひ、優秀な人材を採用していただきたいと思いをしますし、基本的には横浜市内、神奈川県内で優秀な学生・社会人を獲得できれば先々よいと思いをしておりますが、何か引きつけるプレゼンテーション等工夫されていますか。
大野教職員人事・企画部長	紙の資料だけでなく、プレゼンテーションツール等を使い視覚に訴える説明をしています。また、若手の教員に協力してもらいビデオレターのようなものも作成中です。お手元の採用案内パンフレットの内容も教育委員会のホームページで閲覧することができるようになっています。
野木委員	小学校の英語が必修になることに対する考慮はありますか。
大野教職員人事・企画部長	選考区分のうち、特別選考のⅠでスポーツ・学芸・英語力等特別選考がございます。従前から行っていますが、小学校の受験者については、実用英語技能検定1級、TOEIC800点以上で選考により1次試験免除となります。
野木委員	先ほどの説明で採用予定数は740名と聞きましたが、今年の採用式では900名位いたと記憶しています。この差についてはどのように考えればよいでしょうか。
大野教職員人事・企画部長	欠員が出ることも考慮し、できる限り多く採用しております。
田村教育長	採用式には学校事務職員や栄養職員も含まれています。
大野教職員人事・企画部長	教諭と養護教諭あわせて901名でした。募集時期と実際にどれだけの教員が必要となるのかが判明する時期にズレがあるため採用数の増加につながっています。
野木委員	それでも20%位違いますので、他の理由があるのかと思いをまして。
田村教育長	募集時に公表している人数よりも実際には多くの合格者を出しています。
大野教職員人事・企画部長	合格はもっと多くの人数となっておりまして、1141名を合格といたしました。これは辞退も見込んでのものであります。
田村教育長	合否の決定の時点では、欠員や辞退率も見込んで合格を出しております。
野木委員	予算は大丈夫なのでしょうか。

大野教職員人事・企画部長	必要な分を採用しておりますが、必要以上には採用していません。不足した場合には臨時的任用職員で確保することになります。結果的に本来学校で必要とする人数以上に採用することはありません。
野木委員	あまりよくわからないのですが。
田村教育長	詳しい資料を後ほどお示ししたいと思います。
小濱委員	辞退者はどの位を見込んでいますか。
大野教職員人事・企画部長	その年の経済状況等もあると思いますが、昨年度は1141名合格で901名が採用となりましたから、辞退は240名となります。
田村教育長	成績順で並べて同順位者を採ることもあります。同順位者が多かったり少なかったりする場合もあり、割合では決めておりません。
小濱委員	辞退する方は、他の自治体に就かれるとか、企業に就職されるとかあるのでしょうか。
大野教職員人事・企画部長	関東近郊は同一試験日ですので、東京都や神奈川県に流れることはありません。関西は別日程ですので、地元で合格して地元採用される方もおります。
小濱委員	何とか、辞退者を少なくしたいですね。「横浜に合格したぞ」と言えるようなものとして、辞退者が減る努力をしていただきたいです。
吉備委員	この受験案内を見て思いましたことは、非常に明るくて、楽しいということが読みとれるのですが、一つの職業を選択するとき、見るものとしては、少し学校の重みを感じられない印象を私は受けました。例えばですが、教育長の採用式でのスピーチの内容を聞きましても、厳しさの中にもやりがいがあるということが伝わるパンフレットにしてくださいかったです。
田村教育長	この案内は、同年代の教員たちに考えてもらって出したものです。委員御指摘のとおり、「こういう教師が欲しい」ということを鮮明に打ち出したメッセージ性をもったものとするという考え方はあると思いますが、今の教員の受験状況を考えますと、まずは、横浜に魅力を感じていただき、横浜に集っていただきたいと考えております。あまり初めから厳しいことばかり言ってしまいますと、今の受験生は「そんなに窮屈なら」と考える向きもありますので、今後作成する際は工夫しながら考えていきたいと思っております。
今田委員長	全て任せるのではなく、「開国の地横浜で教育に携わってみませんか」ではないですが、開港150周年なので、そういった違う視点でアドバイスしてあげてもよかったかもしれません。先ほどの数字の件は整理して後で示してください。 他にご質問等がなければ、次に「平成21年度全国学力・学習状況調査の実施」について説明をお願いします。

漆間学校教育
部長
入内嶋小中学
校教育課長

【「平成21年度全国学力・学習状況調査の実施」について説明】
資料の訂正 1-(4)市内実施校 中学校の合計 143校→145校

今田委員長

事務局から説明が終了しましたが、ご質問等ございますか。

中里委員

横浜市の学力状況調査とリンクさせると子どもの学習の伸びや教員の
事業力などが分析でき、個人の課題、学校の課題も読みとれます。
小中学校教育課で、各校で状況の分析をするための、例文の提示があ
りますが、去年の中学校型の部分が、学習のみの分析の事例が掲載され
ていました。子どもの学習には、学習意欲や環境、生活面も学力に影響
します。各校でもそれらとリンクして分析しています。偏った事例です
と誤解することもありますので、昨年のもを見直していただきたいと
思います。

田村教育長

逆に、このようなひな形で、こういう表現で公表したら如何か、とい
うのは教育委員会は控えた方がよいのでしょうか。
私は、できるだけ学校ごとに工夫して、図表や数値を用いて保護者に
わかりやすく発信をするべきと言っていますが、学校教育部の示してい
るものは、ある意味では専門的で保護者にはわかりにくいのかなと感じ
ているのですが。

中里委員

ひな形はあった方がよいとは思いますが、独自にそれぞれ工夫して公
表している学校はたくさんあると思います。

田村教育長

市全体の公表は、市町村の教育委員会に任されており、学校の状況も
学校長の考え方でやってよいこととなっています。横浜市ではその時に
できるだけわかりやすい形で数値で示すように言っていますが、学校に
よってはもっと踏み込んだ形で公表したいというところもあります。
市のひな形は、全体を揃えるために意味が曖昧な表現になっていた
り、学力テストなのに学力を測れるものではありませんと書いてあつた
りしています。

漆間学校教育
部長

市民・保護者・子どもたちにとってわかりやすいもの、学習状況の分
析の仕方についてきちんと明確に出されたものの例を示すなど、わかり
やすいものを出していきたいと考えております。

野木委員

今後の予定を見ますと、9月に国から結果が来て、11月に学校に結
果が行くようですが、もっと早く学校にフィードバックできないので
しょうか。

中里委員

学校にも9月の時点でデータがきて分析ができます。

入内嶋小中学
校教育課長

11月は報告書が各校に送られる時期です。できるだけ早く報告でき
るように努めたいと思います。

田村教育長	データが送られてそれでおしまいではなく、課題を共有し、改善に役立てていけるよう努めていきたいと思います。実施するからには有効に活用しくことを伝えていきたいと思います。
小濱委員	公表の仕方についてですが、自分のレベルがどこにあるのか知りたいというニーズはあると思いますし、そのニーズに応えるべきと思いますが、どのような形で公表するかお考えがありますか。
入内嶋小中学校教育課長	それぞれの子ども、各学校、市、国の平均正答率のデータは来ますので、お子さんに返すときは、そのデータを示し、課題はここであるということとは従来からも行っています。子どもたちにどう返し、次にどう生かしていくのか課題であると考えております。
田村教育長	自分、市、国の平均正答率はわかりますが、自分の順位や位置はわかりません。公表については市町村に任されていますので、その中身については今後検討していきます。
丸山教育次長	この件については、今年度、学力向上推進本部を設置して、その中でどうあるべきかを検討していきます。
吉備委員	<p>スケジュールについて時間がかかりすぎているのではないかというご意見がありましたが、根本には文部科学省の対応があまりにも遅すぎるということがあると思います。この点について改善するように横浜市からも今後発信すべきだと思います。</p> <p>また、個人が全体に対して何位であったか、個人の数字が出てきません。そこが学校の順位を公表をする、しないという話題に繋がっていく一つの原因ではないかと思います。学校の順位ではなく、一人ひとりがどうなのか、我が子がどうなのかという考え方を保護者はすべきだと思います。そういう発想に導いていくためにも、例えば全体の上位20%の中にいるというような表示でよいと思いますが、もう少しわが子に目を向けさせるようなデータの公表方法を国の方で配慮いただければ、市町村や学校ごとの競争であるとかそのような発想から回避されるのではないかと思います。</p>
田村教育長	<p>なかなか難しいと思います。学習状況調査は、保護者からすれば相対的な位置をしっかりと知りたいと思うのですが、一方この調査が税金を使って教育についての実証を行うというものですので、学習状況調査の問題はできる子から力が足りない子までの分布が正しくできるような難しい問題にはなっておりません。学校で義務教育で教えていることがどれだけ浸透しているのかというような教育の効果を測定するような視点がありますので、保護者の望まれているものに応えるのは難しいと思います。むしろ、この調査は教員がこの結果をどう受けとめるかということが今まで行われてなかったと思います。自分のクラスの状況は、即授業力に、教師側に求められる努力ということに跳ね返るものだと考えます。</p> <p>スケジュールについては、指定都市の会議等もありますので、話題として投げかけ、指定都市として足並みが揃えば、文部科学省に求めていきたいと思います。</p>

今田委員長	この調査の結果については、総論的な捉え方となっているとは思いますが、事務局から出てくる報告書は、隔靴搔痒の感、理解が難しい部分がありました。出てくる報告書はぜひわかりやすいものを作成してください。
漆間学校教育部長	改善につながるためには、わかりやすいものでないといけませんし、さらに意欲・モチベーションが高まるような取組を考えたいと思います。
小濱委員	学習塾の模擬テストでは、蜘蛛の巣状のもので、ここが出来て、ここが劣っていますというようなものが出ますが、ああいうことをやったほうがいいと思います。
漆間学校教育部長	横浜市の学習状況調査では蜘蛛の巣状のものを採用しています。
今田委員長	例えば悪いですが、健康診断の結果のように、毎年同じようなところが凹んでいるなど毎年傾向は変わらないのでしょうか。
漆間学校教育部長	次の年度にも凹んだ状態がまた出てくるとすれば、学校としては頑張っていたかかないといけないと考えます。
今田委員長	他にご質問等がなければ、次に「教育委員会事務局ブタインフルエンザ対策本部の設置」について説明をお願いします。
高橋総務課長 清水健康教育課長	【「教育委員会事務局ブタインフルエンザ対策本部の設置」について説明】
今田委員長	事務局から説明が終了しましたが、ご質問等ございますか。
吉備委員	今後、各学校から家庭への連絡することとなった場合、一斉メール配信のできる学校とできない学校とがあると思いますが、文書におけるたった1回の通知では、子どもが保護者に渡さなかったりすることも考えられ危険だと思います。学校から家庭への連絡方法についてはどのようにお考えですか。
田村教育長	今後、渡航の自粛の呼びかけも必要になってくるかと思いますが、メール配信の機能等をうまく活用できればと思いますが、今後、臨時休校の措置をとらなければならなくなった場合には、学校保健安全法に基づいて設置者である教育委員会がその措置をとらなければならないケースも考えられます。各家庭への伝え方については校長会等とも相談していきたいと思います。
内田総務部長	横浜市の学校への通知だけでなく、市民への発信方法として様々な手段を有しておりますが、例えば報道機関を通じて発信することも可能だと思います。1対1の通知では委員御指摘のとおり子どもが見せないということも考えられますので、関係局と調整して考えられる対応を重ねてやっていきたいと思います。

今田委員長 市の会議は本日開かれるのですか。

田村教育長 本日正午から開催されます。

今田委員長 これに関するノウハウ、対応のアドバイスもあると思いますので、それを踏まえて対応してほしいと思います。

田村教育長 はまっ子ふれあいスクールや放課後キッズクラブ等をどうするかという、学校と連動させて考えないといけないものがあります。教育委員会だけの対応ではありませんので、よく調整していきたいと思います。

野木委員 これを機会に緊急連絡網がきちんと整備されているか、個人情報保護の関係できちんとなっていないところがあると思います。伝達手段としてメールの活用を考えるなど、この機会を捉えて各学校ごともしっかり取り組んで欲しいと思います。

吉備委員 一斉メール配信を導入されている学校はどのくらいあるか把握しているでしょうか。

田村教育長 学校ごとに任せていますので把握しておりません。

吉備委員 こういう機会ですので、ぜひリサーチしていただき、混乱が生じないようにしていただきたいと思います。文書1枚を出したから安心ではなく、今から準備をして充分だと思しますので、今一度検討していただきたいと思います。

今田委員長 メキシコの日本人学校には横浜市から行っている方はいますか。

田村教育長 おりません。

内田総務部長 本日付けで、教職員について該当地域への渡航を自粛するよう、文書で通知することとしています。また、従来から海外旅行に行く場合は、報告をすることとしています。最近海外渡航した者の調査をいたします。

今田委員長 他にご質問等がなければ、次に「開国博Y150開会式及び内覧会の実施」について説明をお願いします。

丸山教育次長	<p>昨日、このテーマイベントのY150開会式がございまして、教育長の代理で私が出席しました。午後から内覧会があり、学校教育部長等とともに状況を把握してきました。</p> <p>開会式は、中田市長、松沢知事等のご挨拶がありました。私の印象ですが、横浜博覧会のような数多くのパビリオンがあるというものでなく、市民と一体となって創り出す、市民協働型のテーマイベントと申しますか、これらイベントにつきましても開会式の中で紹介されたことが特徴でありました。</p> <p>また、内覧会ですが、多くの校長が参加しておりまして、見所を中心に視察しておりました。今回の会場と周辺施設とを関連づけながら校外学習につなげていくということが今回の特徴であると思っておりますが、150年の歴史、現代、そして地球環境を中心とした未来について、子どもたちの学習にとって有意義なものであると感じました。4月30日から校外学習が始まります。報告は以上でございます。</p>
今田委員長	<p>それでは、次に、議事日程に従い、協議事項に移ります。「中高一貫教育校」について説明をお願いします。</p>
漆間学校教育 部長 木田高等学校 教育課長	<p>【協議事項「中高一貫教育校」について説明】</p>
今田委員長	<p>説明が終了しましたが、この件について、ご質問・ご意見ございますか。</p>
	<p>私から質問しますが、中高一貫教育校の取組としては、中等教育学校と、中高一貫でも併設型というものがあり、東京の例なども踏まえながら、それぞれの長所・短所等の比較のようなものはしていると思っておりますが、その点はいかがでしょう。</p>
田村教育長	<p>これまでも勉強会等でご説明してまいりましたが、公式の教育委員会の場で中高一貫校について協議するのは初めてでございますが、事務局で検討した中では、中高一貫教育のもつメリットを最大限に生かすには中等教育学校という形がより望ましいのではないかとということで、今回、協議のたたき台としてお出しさせていただきました。</p> <p>ただし、全国的に見ますと、併設型と中等教育学校と2つに分かれておりまして、そのどちらに軍配が上がったというところには全国的にもなっておりません。全く新しく学校を作るのではなく、既存の学校をうまく生かしながら、併設・連携型や中等教育学校を設置しておりまして、中等教育学校の最大のデメリットは、キャパシティが同じ中で中学校を設けるということで、ある程度数を減らすことが必要となります。具体的に申し上げますと南高校では現在1学年8クラスありますが、中高一貫とするためには、半分程度にしていかなければなりません。そういう意味からも入学定員の問題、また、南高校は大変地域性の強い学校でありまして、地域の方が学校運営に協力したり、地域のお子さんが南高校に進学したりというものがありますが、中等教育学校になりますとその点ではデメリットとしてあげられると思っております。</p>

- 田村教育長 この後紹介があると思いますが、本日の新聞報道でもありましたとおり、一部の地域の方々から中等教育学校への懸念が出ております。私どもとしましては、本日このような提案をさせていただきましたが、今年の6月までに基本構想を決めていきたいと考えておりました、本日お示しした中身を肉付けしていくことがその内容になると思いますが、いろんなご意見があると思いますので、本日の内容を基本に関係者によく理解していただくための説明を行っていきたくと思います。今まで水面下での調整でしたので、突然耳にされた方は驚かれて、如何なるものかと私の耳にも入ってきておりますので、この何ヶ月かの間で丁寧に説明していくことと同時に連絡会の中でも先生方からいくつか課題が出されておりますので、引き続き、この場や連絡会の場で協議をしていきたくと思います。
- 私どもが急いでおりますのは、来年度南高校に入ってくるお子さんから影響が出てくる話でございますので、そう遠くない時期に保護者や受験者に対してもこうなりますということを伝えていけるようにしたいと考えております。そのためには6月位までには設置形態まで決めていきたいと思っております。
- 今田委員長 それぞれの設置形態のメリット・デメリットのデータはもう用意があると思いますが。
- 田村教育長 これまでも議会の中で中高一貫校の方向性についてはお答えしておりました、中高一貫校を用意していくことは概ね異論がないところですが、一番の分かれ目は設置形態についての議論だと思いますので、もう少し時間をかけて議論していきたくと思います。
- 小濱委員 新聞報道でありました「明日正式決定」というのは勇み足ということですね。
- 田村教育長 前週の金曜日には議題を告示しますので、関心のある方はそれをご覧になって教育委員会で協議されることを知ることができます。
- 小濱委員 中等教育学校を選択した理由として、設置形態の一方を書いていますので、中等教育学校に反対の人たちの気持ちを考えますと、双方のメリット・デメリットの比較検討ができるような資料の作り方が必要だと思います。
- 併設型のデメリットについてはどのようにお考えでしょうか。南高校は地域に根ざした学校で、一気に中等教育学校にしまうと、そのような温かいつながりがなくなってしまうのではとご心配の方もいらっしゃるのではないかと思うのですが。
- 田村教育長 少しその点について事務局で整理の上お示ししたいと思いますが、一言で申し上げれば、併設型は中学から入られる方と、途中から、高校から入って来られる方がいることによって、高校入試を行わなければならないという学校側の負担があります。中等教育学校では6年間いることを前提としたカリキュラムを作成することができますが、そこに新入高校生が入ってくることは学習効果を考えますと問題があると考えております。そのようなことを一般の方達にもわかりやすい形のものをお示しし、後援会、同窓会、PTAの方もご関心をお持ちのようですので、そのようなものをお示ししながら話を進めて行きたいと思っております。

小濱委員	私も何十年も前ですが併設型の中高一貫校に高校から入学しました。中学校から来ている子は、教科によっては学習が進んでいることがあります。そうしますと高校から入った子はかなりズレがあるので、学校運営上とても難しいのではないかと思います。それがデメリットの一つですし、授業を受ける側も早く追いつかないといけないという気持ちがあったり、併設型のデメリットはかなり大きいなと思ひまして、やるのであれば6年間一本でやった方がいいのではと個人的に感じています。
田村教育長	いろいろご意見をいただいておりますが、今日のところはどちらに決めるということではありませんので、今後も理解を深めていただければと思っております。
今田委員長	中高一貫校については、事務局で整理をし、長所短所を比較検討し、改めて協議事項としていただくようお願いします。引き続き、金沢高校普通科専門コースについても説明してください。
漆間学校教育部長 木田高等学校教育課長	【協議事項「金沢高校普通科専門コース」について説明】
今田委員長	資料には書いてありませんが、志望者数が30%近く減っているなど、学校側も危機意識を持っていると思うのですが、それはあえて資料には示さなかったのでしょうか。事実は事実として受けとめ、資料の中でも説明したほうがわかりやすいのではないのでしょうか。
木田高等学校教育課長	学力向上研究校の取組の延長の中で、教職員が改革に向けて取り組んでいるのは事実でありまして、その取組の中で来年度から実施したいと考えているものであります。
小濱委員	文理特進コース（仮称）と資料にあります。これはサイエンスフロンティア高校が理系としてありまして、その文系版ということでしょうか。もっとそのあたりを前面に出した方がよいのではないのでしょうか。横浜の市立高校には理数系のエリート校と文系のエリート校があるということをはッキリ表した方がよいと思います。
漆間学校教育部長	もちろん他の5クラスも学力向上に向けてしっかりと取り組んでまいります。
野木委員	文理特進コースを不合格となった場合、一般コースを受けることは可能ですか。
田村教育長	もともと入口が違いますから、それはできません。
小濱委員	冒険心を掻き立てるようなことなのではないでしょうか。

田村教育長	今回の提案は、具体的に金沢高校から出されたもので、事務局からも働きかけていたことではありますが、保護者や子どもの進路希望に対してしっかりと応えていくことは高校の大きな役割であると思っております。こういった学校は全国的に見てもあまりなく、埼玉の方に1つだけあると聞いておりました。全国的にもユニークな取組だと思っております。入学の時点から違いますので、相当な意気込みの子どもがやってくるのだと思っておりますし、できれば、大学進学を塾に行かなくても高校の提供する学習メニューをこなせば、国公立や私立難関校の現役合格ができるように環境整備を整えることをやっていきたいと思っております。
中里委員	前期・後期選抜がありますから、前期で文理特進コースに不合格になっても、後期で一般コースを受験することは可能だと思います。
小濱委員	入学後のコースの移行は不可能ですか。
中里委員	前期選抜は中学校の内申書と面接と自己PR書の内容ですから、結構バラつきがありまして、合格はしたものの学習が厳しくなってくることも予想されます。金沢高校の中で柔軟に対応していただいた方がよいと思います。折角力のある子が潰れてしまわないように配慮していただきたいです。
田村教育長	県の選抜制度には議論がありまして、選抜は全県的なルールがありますので、前期と後期の枠をどう振り分けるかによっても違うと思えます。難関校では前期選抜の枠を小さくして、後期選抜の学力検査でしっかりとその子の力を見極めようとするところがありますので、枠につきましてはもう少し議論していきたいと思っております。
中里委員	独自問題による選考になるということですか。
木田高等学校 教育課長	来年度すぐではないのですが、当然視野に入れております。
今田委員長	繰り返しになりますが、志願者が減っていることをしっかりとということを言わないと誤解があると思えますし、それを示す方がわかりやすいと思えます。
野木委員	高校については取組が様々見えてきておりました。サイエンスフロンティア高校が発端だとは思いますが、中高一貫校や今回の金沢高校の取組などあります。市立高校それぞれどのような特色を出していくかを明確にしたほうがよいと思えます。
小濱委員	現時点でその他の高校のお考えなどはありますでしょうか。
漆間学校教育 部長	それぞれの市立高校が特色をもって学校づくりをするように指示しておりますので、考えていきたいと思えます。

田村教育長 例えば、スポーツであったり、芸術であったり、子どもの才能を大きく伸ばしていくための設えについても特色として求められていると思いますが、まだメニューとしては用意されていませんので、高校全体プログラムの中では特色づくりとしておりますが、こういったことも今後考えていければと思います。

内田総務部長 現在の高校改革プログラムは平成22年度までの5カ年計画です。そろそろ終盤を迎えますので、次の5カ年計画に向けた準備の時期となりますので、他の学校についても今年あたりから議論していくことになると思います。

吉備委員 現状の中等教育学校、例えば首都圏の学校を見てましても、試験日が2月2日や3日のところが大半だと思います。おそらく、第一志望は私立で、第二の選択肢としての中等教育学校というのがあると思うのですが、試験日の話は時期尚早ですが、それをいつにするかによって、本当に公立の中高一貫校に行きたいのか、それとも私立の第二志望なのかというのは決まってくるものだと思います。ここだからこそ思っている人に集まっていただくためには、私立の試験日以降に試験日を設定し集まってくる人を迎え入れるぐらいの覚悟でやっていただきたいと思います。

田村教育長 平塚や相模原は私立の試験日に合わせてきましたが、まだ詳しい内容は掌握していませんが、これから議論していく中身だとは思いますが、私は、あえて試験日を合わせて公立を選ぶ方、何よりも中高一貫校を提供することは経済的な事情などで私立に行けない方の中でも中高一貫で学びたいという人たちに対してチャンスを与えることですから、日程を合わせていくことも1つのやり方だと思います。

今田委員長 他にご質問・ご意見がないようですので、各委員の意見を踏まえ、検討を進めてください。それでは、議事日程に従い、審議案件に移ります。まず、会議の非公開についてお諮りします。教委第4号議案「教職員の人事について」は人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員 <了 承>

今田委員長 それでは、教委第4号議案は非公開といたします。審議に入る前に事務局に確認ですが、何か報告事項はありますか。

高橋総務課長 4月27日、南高等学校後援会、南高等学校同窓会、南高等学校PTAから、南港等学校を中等教育学校に再編することに関する教育委員会審議に十分な時間を確保し慎重に審議されることを求める請願書が提出されました。本請願書につきましては、事務局で調整のうえ、次回以降にお諮りしたいと思います。
次回の教育委員会定例会については、5月12日、火曜日の午前10時から開催いたしますので、よろしくお願ひします。

今田委員長

皆さん、よろしいでしょうか。それでは、次回の教育委員会定例会は5月12日、火曜日の午前10時から開催することとします。それでは、本日の審議案件は非公開案件のみですので、傍聴の方はご退席願います。また、関係部長以外の方もご退席ください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

<削 除>

今田委員長

これで、本日の教育委員会臨時会を閉会といたします。

[閉会時刻：午後0時15分]